

# Forex

株式会社 ジャパン  
エコノミックパルス

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町

2-33-5

Tel 03-5962-3910

Fax 03-5962-3913

www.j-pulse.co.jp

info@j-pulse.info

# Market Insight

2025年6月30日（月）

## ドル安とクロス円の円安、持続と調整にらむ

### 米関税と減税、米日の指標と中銀政策など焦点

今週の為替相場は全般的なドル安とクロス円（円の対非ドル通貨）取引での円安に関して、持続余地と反動調整をにらんだ展開となる。週間予想はドル/円が143.00-145.80円、ユーロ/円が167.80-171.20円。前週は中東の緊張一服や米関税交渉の進展で安全逃避のドル買いが減退したほか、FRBの利下げ観測の高まりがドル安を後押しさせた。一方で米株高とリスク選好により、対ドル以外では円安が優勢になっている。今週は米国での関税と減税の行方、米日の指標と中銀政策などが焦点になる。

### 米日株高で安全逃避通貨のドルと円が下落、調整は警戒

今週の為替相場で注目されるのは、米国の関税強化策の行方だ。前週は米国と中国の関税交渉などが進展となり、米国株が上昇で安全逃避通貨であるドルと円は売り優勢となった。ドル/円はドル安やドルの上値の重さが見られる一方、クロス円（円の対非ドル通貨）取引では円安・外貨高がサポートされている。

今後についてはトランプ米大統領が4月9日、主要貿易相手国・地域にかけた相互関税の上乗せ税率について、90日間の発動停止を決定したが、その猶予期間の交渉期限が7月9日に迫ってきた。前週には延長論が浮上する一方、トランプ氏は日本からの輸入自動車に課している25%の追加関税を見直さない可能性を示唆し、「日本との貿易協定は終わり」と発言している。こうしたプラス材料、マイナス材料の双方が出ても、米日株は上昇となっている。

その点で関税問題については、よほどの新たな打撃材料が出てこない限り、「材料としての一旦の消化」というムードが、米日の株高と、安全逃避通貨であるドルと円の売り材料（円はクロス円）となりやすい。ただし、米日株の上昇には、短期的に過熱感も警戒される。今週以降は調整的な米日株の下落と、クロス円主導の全般円高、あるいは全般ドル反発と対ドル、対円での非ドル通貨安（ドル/円はドル下げ渋り）といった短期調整にも注意を要する。

米国では関税に代わり、減税の議会審議が注目点になってきた。米上院本会議は6月28日深夜、トランプ大統領が推進する4兆5000億ドル（約650兆円）規模の減税を盛り込んだ税制・歳出法案の審議を開始する動議を賛成多数で可決している。今後、与党・共和党の内部では「法案にさらなる歳出削減を求めるグループ」と、医療給付や再生可能エネルギーへの補助金などの予算拡充がなければ支持しないとするグループが対立しており、妥協点を見いだす必要がある、「法案の一部に反対を表明している約8人の共和党上院議員への対応が必要となっている」（6月30日のブルームバーグ）。

今週以降、減税審議が難航となれば、米日株の下落とクロス円主導での円高へと作用。反対に減税審議が進展となれば、米国の株高とドル高、リスク選好による円安の要因となる一方、米国の財政悪化懸念が米国債価格の下落（金利は上昇）とドル安の要因となる可能性もあり、日々、市場反応の見極めが重要になる。

**WARNING!** 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパンエコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル  
TEL (03) 5962-3910 FAX (03) 5962-3913  
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL <http://www.j-pulse.co.jp>  
発行責任者：上坂 郁 編集長：原田 祥二

為替相場では前週以降、全般的なドル安が再燃となってきた。背景としてはイランとイスラエルの停戦による有事のドル買いの後退や、トランプ米大統領による早期のFRB後任議長候補の指名観測、それによるパウエル現議長のレームダック懸念やFRBへの利下げ圧力思惑、米国の経済指標悪化を受けたFRB利下げ時期の前倒しや利下げ回数の増加観測などがある。

一方でこうした材料は米国株にプラスとなる部分があり、前週からは米国の株高と日本株の連れ高、クロス円での円安・非ドル通貨高が後押しされている。今週以降の為替相場では、全般ドル安がドル/円に一段のドル安・円高へと波及してくるか。あるいは米日株の上昇持続次第で、クロス円での円安・外貨高がドル/円でのドル安・円高を抑制させたり、ドル高・円安に作用してくるか。米日株が調整下落に転じ、クロス円とドル/円で全般高に振れるかを日々、見極めていく展開となる。その他の注目点は以下。

#### <クロス円、節目上抜けと上向き見極め>

為替相場ではクロス円（円の対非ドル通貨）取引で、外貨が下限を切り上げている（円高圧力の緩和）。

短中期のトレンドを示す週足テクニカルで、重要節目ラインの上抜け回復や、節目ラインの方向角度の上向き転換を見極める展開となっている。ユーロ/円やポンド/円、スイス・フラン/円などは4週・6週・9週の移動平均線、NZドル/円や豪ドル/円、カナダ・ドル/円、南アフリカ・ランド/円、メキシコ・ペソ/円なども、4週・6週・9週の移動平均線を巡る攻防となっている。

#### <米国の指標とFRB政策>

今週の米国市場では、重要な経済指標が相次ぐ。7月1日のISM製造業景況指数と求人件数、2日のADP雇用統計、3日の雇用統計と失業率、平均賃金などが注目されそう。基本的には関税打撃の本格化や、関税前の駆け込み特需の剥落、中東懸念などにより、各指標ともに悪化が警戒されやすい。

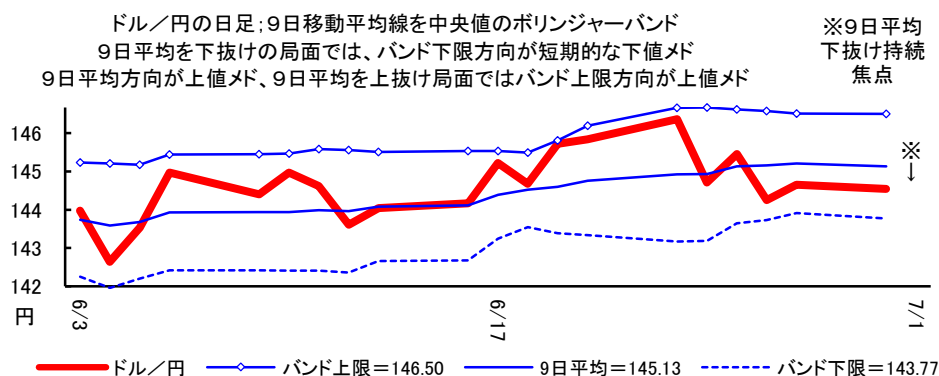
その一方で関税ショックの一旦の消化進捗のほか、各種物価上昇圧力の緩和などにより、底堅さが示される可能性もある。雇用統計については、移民規制や米国内外の企業による米国内生産の強化に対応した人員の確保や、サービス産業は関税影響が限られることなどにより、底堅さが示される可能性もある。

今週の各指標では、FRBによる金融政策への影響が注目されそう。前週には週間新規失業保険申請件数での継続受給件数や個人消費支出などが悪化となり、市場が織り込む年末までの利下げ幅の予想は0.65%と1週間前の0.46%から拡大となっていた。

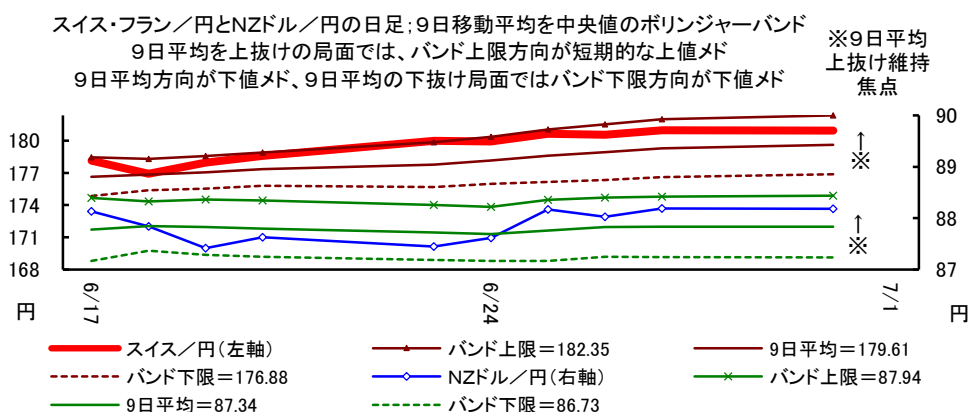
#### <日本の指標と日銀政策>

今週の日本の指標では、7月1日に日銀短観が公表される。米国の関税不透明感などにより、下振れ悪化が目立つと、日銀の利上げ時期の遅延や今後の利上げ回数の減少につながる。為替相場では円高余地の抑制や、クロス円を中心とした円安・外貨高の要因となりやすい。

日銀については前週25日、6月16－17日の政策会合における参加者の「主な意



見」が公表された。その中では成長ペースが鈍化し、基調的な物価上昇率の改善がいったんは足踏みする姿を想定していることに加え、通商政策を巡って大きな不透明性やダウンサイドリスクがあるとして、「現在の金利水準で緩和的な金融環境を維持し、経済をしっかりと支えるべき」といった意見が見られている。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。